

科目ナンバリング		U-LAS00 10014 LJ34							
授業科目名 <英訳>		宗教学Ⅰ Science of Religion I				担当者所属 職名・氏名		非常勤講師 竹内 綱史	
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)		哲学・思想(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位		週コマ数	1コマ		授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	火2		配当学年	全回生		対象学生 全学向
[授業の概要・目的]									
本講義では、宗教への学問的アプローチの基礎を学ぶ。「学問的」とあるとは、まず第一に、「客観的」で「中立的」ということである。宗教ほど多くの偏見や過度の敵意ないし好意をともなって語られるものはないだろう。本講義は、偏見をできるかぎり排し、頭を冷やして、宗教を見つめ直すことを目指す。 現代では、さまざまなメディアを通じて、宗教についての情報があふれている。「原理主義者」によるテロや「カルト」教団による事件といった人々の耳目を集めるもののみならず、季節の「風物詩」とされる各地のお祭りや年中行事、歴史的「文化遺産」とされるさまざまな宗教芸術や宗教的な生活様式、そして妖怪や幽霊などの「宗教的」な存在が当たり前のように登場するアニメやゲーム、等々。このような情報の氾濫のなかで、宗教について「客観的」で「中立的」な判断を下すこと。少なくともそのような判断を下すための道筋を知ること。それが本講義の目的である。 はたして宗教は人間にとって必要なのか。非科学的な宗教を信じるなんて、どうかしているのではないのか。宗教的な存在、例えば神は、存在するのか。宗教と政治はどのような関係にあるべきなのか。そもそも宗教とは何なのか。――本講義では、こういった問題について、具体的な事例もふまえながら、じっくり考えていきたい。 宗教学を学ぶことは、人類の叡知を学ぶことであると同時に、現代社会の最重要問題の一つに取り組むことでもある。本講義を通じて、宗教学を学ぶことの面白さ、さらには学問を学ぶこと自体の面白さを、分かち合いたい。									
[到達目標]									
1. 宗教への学問的アプローチを学ぶこと。 2. 宗教現象の様々な捉え方を身につけること。 3. 宗教とは何かを深く考えること。 4. 宗教のあるべき姿について深く考えること。									
[授業計画と内容]									
テキストの『宗教学』を用いながら、以下の各テーマについて授業を行う予定である。ときどき授業中にミニレポートを書いてもらい、できる限りそれも講義に反映する予定。 1. イントロダクションと宗教学の概要（第1回～第2回） 2. オウム真理教事件について考える（第3回～第5回） 3. 科学と宗教は対立するのか、それとも（第6回～第8回） 4. 宗教と政治はいかなる関係にあるべきなのか（第9回～第11回） 5. 宗教とは何か（第12回～第14回）									
フィードバックについては別途連絡する。									
----- 宗教学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓ -----									

宗教学Ⅰ(2)
[履修要件]
特になし
[成績評価の方法・観点]
平常点（60点）と定期試験（40点） 平常点は、授業内容に関するミニレポートを数回に1回提出してもらい、それによって評価する。 定期試験は、授業内容に関するいくつかのテーマから一つ選んで論じてもらうことを予定している。
[教科書]
伊原本大祐・竹内綱史・古荘匡義編『宗教学』（昭和堂、2023年）ISBN:9784812222157
[参考書等]
（参考書） 岡本亮輔『宗教と日本人』（中公新書、2021年）ISBN:9784121026392 島蘭進他編『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）ISBN:9784641058835 宇都宮輝夫『宗教の見方』（勁草書房、2012年）ISBN:9784326102204 トマス・ディクソン『科学と宗教』（丸善出版、2013年）ISBN:9784621087084 このほかにも授業中に適宜参考文献を挙げる。興味を持ったものには自分からどんどんあたってほしい。
[授業外学修（予習・復習）等]
予習としては、次回の授業のテーマに関係するテキストの箇所を読むこと。 授業後には、授業で紹介をしたいくつかの文献を読み、授業で説明したテーマの理解を深めること。
[その他（オフィスアワー等）]
宗教学を学ぶとは、人類の叡智を学ぶことであると同時に、現代社会の最重要問題の一つに取り組むことでもある。心して受講してほしい。 ミニレポートの提出やお知らせ・教員とのやりとりはPandAを用いる。
[主要授業科目（学部・学科名）]